

ホームページ転居

ホームページ版「ネパール評論」は、これまでヤフージオシティーズにおいていたが、ヤフーが3月末サービス終了を決めたので、やむなく「スターサーバー」に転居した。

IT 素人のため、あれこれやってみて、なんとか既存データだけは新居に運び込んだが、リンクなどがちゃんと機能するかどうかは、まだ不明。試行錯誤、少しずつやってみるつもり。

それにしても、ネット事業は、摩訶不思議。転居先は使用料無料の2Gコース。私のホームページでは動画も音声も使用しないので、2Gもあれば容量は十分。しかも広告すら表示されない！ これで採算がとれるのだろうか？

いずれにせよ、このようなネット・サービスが利用できるのは、IT 素人にとっては、まことにはありがたい。隔世の感。多謝！

▼転居先 <http://pax.starfree.jp/>



谷川昌幸(C)

2019/01/30 at 18:21

カテゴリ: [経済](#), [情報 IT](#)

Tagged with [インターネット](#), [ホームページ](#), [情報化](#)

ゴビンダ医師のハンスト闘争(17)

6. 第 15 回ハンスト

(1)なぜジュムラでハンストか？

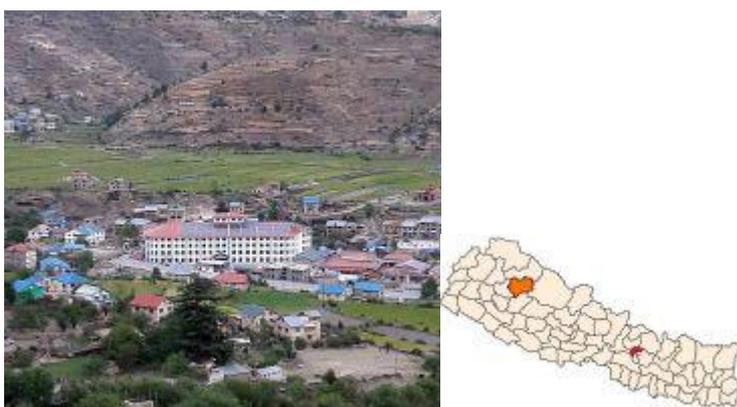
ゴビンダ・KC 医師(博士, TU 教授)は、オリ内閣に対し、政府提出「医学教育法案」を撤回させ、「医学教育令 2017 年」の継承発展たる「医学教育法」を制定させるため、カルナリ州のジュムラ(人口約 10 万人)に行き、そこでハンストを決行することにした。15 回目のハンスト。

それにしてもなぜ、ハンストのため、わざわざ遠隔地ジュムラまで行かなければならないのか？ ゴビンダ医師は、こう説明している(“Dr KC to start 15th fast unto death from today, in Jumla,” Republica, 29 Jun 2018)。

「私は次のハンストをジウムラで開始することにしたが、それは私の闘いがつねに庶民のためのものだからである。地方の人々は基礎医療さえ保障されていないのに、与党有力者らは都市部を優先し、医療の営利事業化により巨利をむさぼろうとしている。」

「カルナリ保健科学アカデミー(KAHS)は2007年開設だが、医学士(MBBS)課程はまだ開設されていない(注)。共産党幹部は選挙の時は票のため人々に耳触りの良いことをいうが、選挙が終われば、人々のことなどどうでもよく、彼等との約束などきれいさっぱり忘れてしまった。だからこそ、私は政府が無視してきたここ、カルナリ[のジウムラ]において、人々と共にありたいと思うのだ。」

(注)KAHSは『暫定憲法2007年』のもとで制憲議会が開設。現在の根拠法はKarnali Academy of Health Sciences Act, 2068 (2011)



■KAHS(FBより)／カルナリ州ジウムラ郡

谷川昌幸(C)

2019/01/25 at 16:44

カテゴリー: [健康](#), [教育](#)

Tagged with [ゴビンダ・KC](#), [ジウムラ](#), [ハンガーストライキ](#), [ハンスト](#), [医学教育](#)

ジオシティーズ廃止で HP 移転, やれやれ

ホームページ開設サービス「ヤフー・ジオシティーズ」が3月末で終了となる。通知メールを見落としていたらしく、数日前ページ更新不能となったのでネットを見たら、事業終了がネットニュースに出ていた。やれやれ。

「ネパール評論」の[ホームページ版](#)は、十数年前、大学サーバー上で作り始め、退職を機に「ジオシティーズ」に移した。

ITは全くの素人なので、「ジオシティーズ」への移行にはさんざん苦労した。試行錯誤、慎重に進めた
が、それでもファイルやリンクが相当数なくなってしまった。それまでの努力が水泡に帰すどころか、文
字通り消失、泡すら残らなかった。ITは恐ろしい。

それなのにまた、「ジオシティーズ」廃止のため、どこか別のサーバーに引っ越さなければならない。ど
うしよう？ バックアップを二重、三重にとり、慎重に作業しても、素人の悲しさ、どこまで移せるか心も
とない。またファイルやリンクが消えてしまうのではないかと、いったい、いつまでかかるのだろうか？
いまだ着手の意欲すら湧かない。

こうしたネット事業の場合、会社の都合で維持が困難になったら、その部分を他社に譲り渡し、事業を
継続することはできないのだろうか？ 素人利用者のため、ぜひ検討していただきたい。

ともあれ、「ジオシティーズ」終了は3月末、それまでに何とか移転せざるをえない。どこに移すか？
無料ないし低料金のものとしては、見た限りでは「スターサーバー」がよさそうなので、一応、利用登録
だけは済ませた。が、移行作業は、素人には難しそうだ。やってみるが、またまたファイルが紛失し
たりリンクが切れたりするであろう。やれやれ、先が思いやられる。



谷川昌幸(C)

2019/01/15 at 14:54

カテゴリ: [情報 IT](#)

Tagged with [インターネット](#)

ゴビンダ医師のハント闘争(16)

5. オリ共産党政権成立とその医学教育政策

(4)政府側反論:民主主義の法と手続きを守れ

オリ内閣や共産党(NCP)の側の反論は、政権側からすれば至極当然ではあるが、民主主義の法と手
続きを守れ、の一点張りである。

オリ首相は、プシュパラル追悼記念集会(7月23日)や党本部集会(7月24日)において、こう語った。――野党はゴビンダ医師を政治的に利用し、問題ではないことを問題化し、反動勢力の陰謀に加担しているが、「これは許されざることだ」。ネパールは憲法を最高規範とする連邦民主共和国。すべての問題は、「法の支配([記事では rule of law, 内容的には rule by law])」を遵守し、民主的議会を通して解決されるべきだ。「民主国では、議会在法律を作るが、 कांग्रेस党にはそのような法律を受け入れるつもりがあるのだろうか?」「 कांग्रेस党は、われわれに民主主義を教えようなどとすべきではない。政権にあったとき、 कांग्रेस党は 122 人の人民を殺し、何千人もの教員や公務員をクビにしたではないか。」(*1,2,3)

これらの集会には、プラチャンダ NCP 共同議長も出席していた。彼も、「もし群衆動員ですべてを決めるのなら、議会はいらぬではないか。ハンスト要求に政府が応じていたら、秩序なき混乱に陥ってしまうだろう」などと述べ、この件についてはオリ首相を全面的に擁護した。(*4)

閣僚の中では、ラム・B・タパ(パダル)内務大臣が強硬発言を繰り返している。7月3日の代議院において、タパ内相はこう述べた。「民主主義は、[病院、交差点など]いかなる場所でも抗議行動をする権利までも保障してはいない。……われわれはKC医師の意見に敬意を払い、民主的な方法で解決しようとしている。誰も法の上にはいない。KC医師には、民主主義の諸価値を尊重していただきたい。」(*4)

あるいは、Onlinekhabar によれば、タパ内相は、「病院や交差点のような特別の場所での抗議行動は混乱をもたらす。なぜ他の場所を選ばないのか? そんな行動は民主的とは言えない」と述べ、KC医師を「権威主義者」だと批判した。内相の考えは、記事によれば、「民主的政府の行為に対し抗議するのは民主主義それ自体への抗議を意味する、というものであった」>(*4,5)

以上のように、オリ共産党政権は、民主主義の法と手続きの正統性を前面に押し立て、ゴビンダ医師のハンストによる改革諸要求を頭から拒絶しようとしたのである。



Ram Bahadur Thapa 'Badal' in Kantipur Tough Talk

■タパ内相(Kantipur TV, 2016/05/25)

*1 "NCP flays NC for siding with Dr KC," Himalayan, 24 Jul 2018

*2 "Accept democratic procedure, PM Oli urges NC," Himalayan, 25 Jul 2018

*3 “PM urges main opposition to accept democratic procedure,” Republica, 24 Jul 2018

*4 “Home Minister: Govt hasn’t deprived people of right to protest, but Dr KC is authoritarian,” Onlinekhabar, 4 Jul 2018

*5 “Home Minister vows to address demands of Dr KC through democratic way,” Kathmandu Post, 4 Jul 2018

*6 Bihar Krishna Shrestha, “Saving Nepal’s democracy from its “Democrats,” Telegraphnepal, 22 Jul 2018

谷川昌幸(C)

2019/01/14 at 17:24

カテゴリー: [健康](#), [憲法](#), [政党](#), [教育](#), [民主主義](#)

Tagged with [オリ](#), [ゴビンダ医師](#), [ハnst](#), [プラチャンダ](#), [Badal](#), [Ram Thapa](#), [医学教育](#)

ゴビンダ医師のハnst闘争(15)

5. オリ共産党政権成立とその医学教育政策

(3) 医学教育法案批判

① ガガン・タパ(kongress党議員, 元保健大臣)

② ディレンドラ・P・バドゥ(kongress党議員)

③ スシラ・カルキ(元最高裁長官)

④ KB・マテマ(元「医学教育政策に関する上級委員会」代表, 元トリブバン大学学長, 元駐日大使)

⑤ ビシュヌ・P・アルヤル(ジャーナリスト)(以上前出)

⑥ カトマンズ・ポスト社説

ネパールの有力紙の一つ『カトマンズ・ポスト』は、7月16日付社説「悪しき処方箋:オリ首相公約は万人の繁栄保障だが、医学法案は一握りの人々の暴利をもたらすだけだ」において、政府案を完膚なきまでに批判している。少々長いが、重要部分を抜き書きしておく(“Wrong prescription: PM Oli’s stated goal is to ensure prosperity to all but medical bill will profiteer only a tiny section,” Kathmandu Post, Jul 16, 2018)。

「この法案[医学教育法案]がネパール全体の医学教育改善ではなく、少数の事業者や彼らとコネのある政党政治家に利益をもたらすことを第一の目的に起草されたことは、いまや周知の事実である。反対派を特に怒らせたのは、この法案が前回の KC 医師ハnst時に政府がすでに決めたことの撤回に他ならないからである。」

「政府がなすべきは、この法案を撤回し、各方面の意見を広く聴取し、それを修正することである。以前には、保健医療教育法案に関する意見聴取のためマテマ委員会が組織された。今回も、医学界の優

れた人々を委員とする同様の委員会を組織すべきであろう。今の法案は致命的な損傷を受けている。政府と社会の間で合意を形成し信頼を回復するには、多大な努力が必要である。」

「オリ首相は、かつてネパール全人民の繁栄こそが第一の目標だと述べた。が、現在の法案は、ほんの一握りのネパール人が大多数の人々を犠牲にして利益を得るようなネパールを目指しているように見える。この法案が可決され法律となれば、貧弱な教育環境にもかかわらず多額の授業料を学生からとる医大の開設が可能となる。医大は首都や他の大都市にだけ開設され、貧しい地域には何の便益ももたらさないだろう。」

「オリは良い統治の確立を目指すとも言った。しかし、この法案はコネ資本主義と結託した法による支配の蔓延をもたらす恐れのあるものであり、悪しき統治の典型にほかならない。この法案が可決されれば、人々は政府への信頼を失い、公約の諸目標を実現する意思が政府にあるのか疑うであろう。この法案は撤回し、これ以上の先送りをせず、意見を広く聴き、改めて法案を起草しなおすべきである。」

【参照】[ネパール医学士\(MBBS\)取得こそ、インド学生にとって最善の選択](#)

▼なぜネパール医学士取得がお勧めなのか？

⇒提出書類準備が容易、ビザ不要、授業料が印・米・英・加などより安い、カリキュラムが印に近く高水準、TOEFL 不要

▼ネパール有名医大の最低必要学費(2018年)

医科大学[認可提携元大学]: 最低必要学費(1 Lakh=10 万ルピー)

- 1 Nobel Medical College, Biratnagar [Kathmandu Univ] : **50 Lakh**
- 2 Universal College of Medical Sciences [Tribhuvan Univ]: **55 Lakh**
- 3 KIST Medical College, Imadol, Lalitpur [Tribhuvan Univ]: **46 Lakh**
- 4 National Medical College, Birganj [Tribhuvan Univ]: **60 Lakh**
- 5 Devdaha Medical College, Devdaha [Kathmandu Univ]: **45 Lakh**
- 6 Nepal Ganj Medical College, Nepalganj [Kathmandu Univ]: **50 Lakh**
- 7 Chitawan Medical College, Chitawan [Tribhuvan Univ] : **52 Lakh**
- 8 Birat Medical College & Teaching Hospital, Biratnagar [Kathmandu Univ]: **46 Lakh**
- 9 Manipal College of Medical Sciences, Pokhara [Kathmandu Univ]: **50 Lakh**
- 10 Lumbini Medical College & Research Cente, Palpa [Kathmandu Univ]: **45 Lakh**



谷川昌幸(C)

カテゴリー: [インド](#), [ネパール](#), [健康](#), [教育](#)

Tagged with [ゴビンダ医師](#), [医科大学](#), [医学教育](#)

ゴビンダ医師のハンスト闘争(14)

5. オリ共産党政権成立とその医学教育政策

(1)医学教育政策後退とゴビンダ医師の抵抗

(2)オリ政権の医学教育法案(以上前出)

(3)医学教育法案批判

この政府提出「医学教育法案」に対し、ゴビンダ医師はむろんのこと、野党や市民社会の多くも猛反発した。

①ガガン・タパ(कांग्रेस党議員, 元保健大臣)

共産党政府は、半年もあったのに、医学教育令を法律として制定することをしなかった。そして、「[医学教育令代替]法案を議会に提出したのはよいが、その法案では、医学教育令の重要規定が特定利益諸団体の都合の良いように改変されてしまっていた。 कांग्रेस党は、このような法案は認めない。」
「もし新しい医学教育法案が従来の医学教育令に規定されていた諸規定を持たないのであれば、われわれは、それに反対するため再び立ち上がらざるをえないだろう。」(*1)

「政府は、共産党系実業家のために、現行政令の定める諸規定を改変した。法案の中のそれらの改変は、これまでの取り決めに反するものであり、わが党(NC)は議会において、それらに断固反対するであろう。」(*2)

②ディレンドラ・P・バドゥ(कांग्रेस党議員)

下院に7月6日、政府案修正動議を提出し、こう述べた。「医学教育令は、政府とKC医師との合意に基づき制定された。この政令に沿う法案を要求し、KC医師は決死のハンストをしているのだ。」(*3)

③スシラ・カルキ(元最高裁長官)

「公的弁護制度連盟」集会において、スシラ・カルキ元最高裁長官は「現政府がKC医師の諸要求を葬り去ることを考えているのなら、それは専制主義者、封建主義者、そしてマフィアの作る政府である」と述べ、オリ政府を厳しく批判した。この集会には、KB・マテマも出席している。カルキは、こう続けている。

「[KCには妻子はない。]KC医師は、この国に利用可能で軽負担の保健サービスと医学教育を実現することをもっぱら訴えている。彼の要求は、個人的なものではなく、人民の要求である。KC医師が人民のために闘うのは犯罪だろうか？何かと人民を引き合いに出す政府だが、一般の人々や地方・遠隔地の貧しい人々の福祉については、政府は特にこれといったことは何もしてこなかった。」(*4)

1. 民主的専制とサティヤグラハ: ネパールから学ぶ
2. ゴビンダ医師ハンスト略年表
3. マテマ委員会報告
4. 医学教育令制定と医学教育問題調査委員会報告
5. オリ共産党政権成立とその医学教育政策

(1)医学教育政策後退とゴビンダ医師の抵抗(以上前出)

(2)オリ政権の医学教育法案

オリ政府は「医学教育令 2074(2017)年」の期限切れ(2018年7月4日)を前に、6月末、議会に「医学教育法案」を提出した。この法案は、ゴビンダ医師が危惧していたように、「医学教育令の主要 22 規定を削除したもの」(*1)であった。主要変更部分は以下の通り。

- ・カトマンズ盆地内の医大新設申請許可
- ・既存大学提携開設医大を5校以内とする制限の撤廃
- ・奨学金付き学生定員を 50%に引き下げ
- ・病院開設後すぐ医大新設申請可能(医学教育令では3年後)
- ・実業家の医療分野参入促進(*2,3,4)

しかも、この政府法案には、「迅速審議(fast truck)」が付帯されていた。これには कांग्रेस党など野党が反対、政府は提出済みの法案をいったん取り下げ、7月6日、「迅速審議」抜きの法案を再提出した。しかし、法案の内容そのものには大きな変更はなかった。

▼参照:「ネパール・メディカル・ショー2017」会場風景



■ [Nepal Medical Show](#)

*1 “Govt unwilling to meet Dr KC’s demands: Talks team,” Republica, July 26, 2018

*2 “Replacement medical education bill draws flak,” Republica, July 1, 2018

*3 Bishnu Prasad Aryal, “Business stake of CPN bigwigs at heart of medical education bill tussle,” Republica, July 5, 2018

*4 Ashok Dahal, “Medical education bill with disputed provisions back in parliament,” Republica, July 7, 2018

谷川昌幸(C)

カテゴリー: [健康](#), [教育](#)

Tagged with [ゴビンダ・KC](#), [病院](#), [共産党](#), [医学部](#), [医学教育](#)

謹賀新年

新年あけまして、おめでとうございます。

2019 年が世界の平和・人権・民主主義実現への飛躍の年となりますように。



谷川昌幸(C)

2019/01/01 at 06:51

カテゴリー: [平和](#)

Tagged with [選挙管理委員会](#), [平和](#)